



編集・発行

2008 年 2 月号

No.392

カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）

〒730-0016

広島市中区幟町 4 番 42 号

TEL (082)221-0621

FAX (082)221-8486

<http://www.nobori-cho-catholic.com>

主任司祭代行：レクダク・ゲラドウス神父
(=ジェリー神父)

四旬節について

ヨハネ 野間重信 神父

◎四旬節の始まり

シュロの枝、それを燃やして灰を作り、それを額に受ける式、などと並べると、カトリック信者であれば、すぐに誰でも「灰の水曜日」の事を話しているなど、分かるはずである。いつ頃からこのような習慣が始まったのか定かでないが、恐らく紀元4世紀頃からはなかったかと思われる。

◎何故変わる？

毎年「水曜日」ということは変わらないが、その日付けは変わる事となっている。その理由は先ず、復活祭の主日が月齢を基にして割り出されるという事にある。それからさかのぼって40日前を考えると、それはちょうど水曜日になるのである。

しかし、その40日も、もう一つ考えなければならぬ点がある。それは、四旬節中断食をして、主のご苦難を少しでもしのぼうという意向があるが、「主日」は主のご復活を祝う喜びの日であるから、その日断食はしないのである。それで、40日というシンボリックな数を生み出すために6つの主日が外れるのである。それからなお、断食の仕方も回数も随分緩和されて、「灰の水曜日」と「聖金曜日」だけに限定され、色々な事でその両日に浮かんだものを貧しい兄弟のための献金として捧げるようになったのは良いことである。

◎復活祭の日付け

では、復活の主日はどのようにして決まるのであろうか。12月25日というご降誕の日付けは、完全に人為的なものであるが、復活祭は歴史的な根拠を持っている。

旧約聖書の出エジプト記を見ると、12章、13章とにユダヤ民族が永いエジプトの奴隷生活に終止符を打って、エジプトから脱出する様子が詳しく述べてある。いわゆる「過越し」の出来事であるが、13章の4節に「あなたたちはアビブの月に出発する」とある。このアビブの月が太陽暦の3月の後半から4月の前半に当たる時期で、もう少し具体的に述べると「春分の後の満月のすぐ後の主日」という事が出来るのである。

今年の一つ、春分の日から毎晩空を見上げて、月の様子を眺めて見ては如何でしょうか。ここで神の大きなみ摂理を感じ取る事が出来る。ユダヤ人たちはエジプトを真夜中に出るのであるから、その時、煌々と輝く月によって彼等は迷う事なく進む事ができたのである。

結論としてもう一度まとめると、復活祭からさかのぼって6つの主日ははずし、毎年「灰の水曜日」が決まるのである。

枝を一年間家に置くのは来年の「灰の水曜日」のためだけではない。シュロの枝を振って、熱狂的に主をお迎えした群集が一週間もたたないうちに「十字架につけろ！」と叫んでしまうような事を私たちは絶対にしないように、どんな事があっても主のみ名のために、信仰を忠実に守り抜く決心を日々新たにするためである。

バンガンス神父様は、療養のため淳心会姫路本部に2月4日から戻られることになりました。ジェリー神父が幟町教会の主任代行になられます。

飛び込みインタビュー

シスター小野島照子

お名前 小野島照子

(煉獄援助修道会)

生年月日 1942年

霊名 マリア(1961年 幟町教会にて受洗)

生い立ち、家庭環境

父の仕事で台湾の台南で生まれ、父が亡くなり、終戦後は母の実家である広島に住み、5年生からは幟町小学校に通い、建設中の幟町教会を見ていました。親戚の影響で流川教会の日曜学校に中学まで行いましたが、高校からは友達の誘いにより幟町教会の公教要理で聖書の勉強。卒業後に受洗しました。大学では英文学を専攻。その後、2年間教職に就きました。

修道者を目指すきっかけは？

キリストに全面的に従いたい望みを戴き、修道会を探していた時、学校の枠を超えた司牧の手伝いに惹かれて、学校経営のない修道会をあえて選び、援助修道会と出会いました。家族(母と兄)は信者ではなかったけれど、「神にいただいた子は、神に返す」と母は言い、後に母は受洗しました。

どんな時に「生きがい」を感じられますか？

もつれた糸のように苦しむ心の解放を目指して同伴し、共に新しい価値観による解放の体験をし、新しい生き方が始まるのを目撃できる時、生きがいを感じます。困っている人が助けを求めてくると手を差し伸べたくなるのは、祖母や母の影響で、ごく自然に育ちました。キリストが必要とされているところにいたいと思い、そこに派遣



されるなら、それを使命だと思います。しかし、どんなに同じ視点から見たいと願っても、相手の立場には立てません。その人なりに神が創造された姿へ向かって歩めるよう助ける事を願っています。

現在の思い

信徒の霊性をみなが探求できるような神学講座を皆で考えられないでしょうか。たくさんの活動がある中で、“神様との関係”をどのように深めているのでしょうか。皆が活動を動かして行く霊的エネルギーをどこで汲み取っているのか心にかかります。

将来への思い

世界平和を願って与えられてきたものを今度は物心両面で具体的に共同体として発信できるものがほしいです。平和のシンボルとなる開かれた教会になりたいと思います。世界中に困っている人は大勢います。私達も、国内国外において、“宣教者”(国を超えて福音を伝え、兄妹愛を実践する)となる時でしょう。

他の小教区と比較すると？

「小教区」「司教座」「世界平和記念聖堂」の3つの役割を意識してどのように活動していくかが課題です。

幟町の共同体に期待することは？

忙し過ぎて渇きに気づかないし、信仰を意識できないほど、社会生活と信仰がかけ離れているのではないのでしょうか。信仰を社会生活の中で生きる、“宣教者”を育てる共同体となる努力を皆でしたいです。平和の問題、環境問題、人権問題などを前にして、具体的に福音を生きるために、世界平和記念聖堂に託された使命を共に考えられたらと願っています。



ビンゴ大会

私たちの共同体には、外国からの家族も多くいらっしゃいます。その中で、フィリピン人の方々が集まり、様々な取り組みをされていますので、紹介します。皆様のご協力もあわせてお願いします。

フィリピン人協会について

MR

皆さん、はじめまして。私は広島フィリピン人協会の議長のMR 申します。

この協会を始めていたのは昨年8月か9月の頃でございます。今までにたったまだ5ヶ月間しか経っていません。この短い期間でこの私たちの仲間たちのおかげで委員会が出来ました。そしてJ-CARMのおかげで昨年11月18日にBINGO会活動を行うことができました。続いて昨年12月16日にクリスマス・パーティーをミサの後に幼稚園ホールで行いました。そのパーティーに参加した人数は100人以上いました。全ての成功は委員たちとジェリー神父様



クリスマス会

のおかげだと思います。

今年、広島フィリピン人協会の委員会は1年間の活動計画を段取りしました。その段取り計画リストは以下の通りです

この協会は始めたばかりですので成功するように皆様の御応援をよろしくお願い申し上げます。

(2008年度活動の日程表)

2月：グループ黙想会

3月：復活祭/ファミリーデー

4月：花見

5月：フラワーフェスティバルに参加

7月：平和公園掃除

8月：夏キャンプ

10月：ビンゴ大会

12月：クリスマス会

(その他)：

1. Filipino Fureai Hiroba (フィリピン人ふれあい広場)
2. Freecomputer/Japanese/English lessons (無料パソコン、日本語、英語教室/レッスン)
3. Interaction with other Filipino organizations (他所の地域のフィリピン人会とのふれあい)
4. Symposium (いろんな講演会)

バンガンス神父様への 感謝の原稿を募集します。

バンガンスベルゲ神父様が、休養のため姫路に戻られました。約10年の間、幟町教会の司牧のため、また多くの方々をキリストの道に導いてくださいました。

「平和の鐘」では3月号で、バンガンス神父様への感謝の気持ちを込めて、皆様の原稿を募集することにしました。感謝の気持ちや思い出などを2月24日(日)までに、受付ロッカー室の「広報係」レターケースまでお寄せください。

日曜学校から

四旬節黙想会を終えて

1月27日に行いま

した四旬節黙想会は、前回(待降節)と同様、お話し(講話)はリーダーがしたのですが、少し物足りなかったように思われました。

それと、深刻なのは参加者の少なさです。集まった子供たちはたったの13人で、待降節の時もですが、今回も過去最低の人数でした。いくら少子化傾向とは言っても…この状態でシスターや神父様にお話し(講話)して頂くのは大変申し訳ないのでは?と思いました。

私たちの運営方法、アイデア不足が原因かもしれません。**みなさんの助言やご指導等よろしくお願いします。**

それから、この度休養に入られたバンガンス神父様や4月から異動されるジェリー神父様には、外国人(主にフィリピンの方)とのコミュニケーションを取ることに非常に力になって頂き感謝しています。

特にバンガンス神父様には何年も前から陰でご指導頂き、多くの外国人を親に持つ子供たちの受け入れることができ、一緒に活動する体制を築くことができました。本当にありがとうございました。

【これからの予定】

2月24日 各クラス授業
3月9日 終業式、卒業式
3月23日 復活の主日
4月6日 入学式、始業式



運営委員会から

1. ラサール会館について教区事務局長の西江神父様から報告があった。
 - (ア) 司祭会議において耐震の不足などの理由により、取り壊しについて話し合われた。
 - (イ) 現在ラサール会館内利用者の移転先及び取り壊し後の空地について検討中。
 - (ウ) 昨年、改修工事を行った際のトイレ、シャワー室の器具等は、幟町で保管をして頂きたい。
2. 2008年度予算案について財務部長より報告があった。
3. 尾道教会聖堂建立の寄付金は15万円と決定した。
4. 四旬節黙想会について
 - (ア) 2月17日(日)9:30 ミサから
 - (イ) 指導司祭 柳田敏洋神父(イエズス会)
 - (ウ) テーマ 真実の私へ回心を深める ― イエスの心を悟るために―
 - (エ) ミサに続けて第一講話 大聖堂
 - (オ) 12:00 昼食 マリアホール
 - (カ) 13:00 第二講話 マリアホール
 - (キ) 14:00 質疑応答 終了
 - *お弁当 500円 当日ミサ前受付
5. 広島キリシタン殉教者顕彰会運営委員会より
 - (ア) 2月11日(祝)

「広島キリシタン殉教祈念祭」

 - (イ) 10:00 記念碑前の祈り<担当 幟町>
 - (ウ) 10:40 殉教祈念ミサ

観音教会 司式 三末司教
説教 山根敏身神父
<先唱、朗読 幟町>
 - (エ) ミサ後 講話 山根敏身神父
 - (オ) 12:30 軽食 分かち合い
 - (カ) 14:00 終了
 - (キ) 今後殉教祈念祭は、担当を順番に受持つ <今回は幟町>
 - (ク) 会員の募集を行う (寄付金)
 - (ケ) 顕彰会規約が作成された。2月の運営委員会で配布する。

2月の運営委員会は、2月24日ミサ後に行う。

